



三
 乙
 早
 南
 事
 記

早稲田大学図書館
 文書 27
 B 37
 2



上海申報 九月十七日時事新報見之

論邊防近勢

中國辦理邊防自李伯相蒞滬與法國德公使商議不
合返節之後大有整軍經武之意如張振帥回越東也
所調各路防軍帶姓者不下數萬即雲南經岑劉軍
督率調遣而朝廷又特命向辨軍務之唐君炯游升撫
使以佐岑公則是滇邊戍務正在所夕經畫不遺
餘力其餘東南沿海省分亦各添募營額整頓操防
外間擬議皆謂國家于安南決不肯不認為屬國聽法人
之所為矣目下雖顧法國和好之局未便輕啟邊釁然
法人既不肯以讓則我遣軍以救安南亦非我之自啓

叶長大忌
東洋又陷
深恨之口

其衅為得滇粵邊境大集師徒遂為聲援以壯黑
旗之威即不必深入越地與法交綏而法人久駐於越屢
戰屢挫或者知越之不可遽得與中國之不可強爭深以
勞師靡嗣為憂翻然悔悟旋師以待後國亦未可知
此固中朝當事諸公所深思熟計者也不意我方運籌
邊之策彼已遂奪地之謀越新王嗣立未幾國事紛
更人心惶恐其勢已大非昔比故砲臺一失遂為城下
之盟數日之間法人與定和約自此越國之事悉歸法
人管轄僅存守土之名盡削自主之權矣噫中國方為
越南整頓軍務此時此際聞此消息將何以為計耶
竊為中國處此始值萬難若數月之前李伯相在滬之日

備未為極其難也蓋法之圖越所以削我不得與鄰者徒
以中西屬國之休本自不同中國則但有封貢之名而泰西
則必盡統屬之實故藉詞於越南之事中國徒未與聞不
得遽認藩屬因此中國與之高議彼可掉頭不顧政成
尊地惟所欲為中國平日既未將中西屬國不同之情
先與法人明言而又於越平越法交涉之事因循坐視
則至今日而欲以口舌相爭固非法人所樂聞矣然謂六
戎邊以自衛者衛越尚可謂行其志也今法已取越和
約已成法人不使我認越為屬者我國不得禁法人取
越為屬也越為中屬則凡事從中例今從法例則凡事
又從西例知約諸條無非法人治越之事守越之地收越

之稅。已。後。越南。全。土。不。當。法。國。行。者。耳。中。國。身。之。接。壤。
地。雖。仍。存。越。南。之。名。實。已。與。法。為。隣。法。之。取。越。意。謂。無。
與。中。國。之。事。中。法。和。約。無。間。也。若。中。國。必。遂。換。越。之。謀。則。將。
整。兵。出。隊。與。法。人。戰。其。退。而。後。已。越。人。受。法。迫。脅。徵。特。
不。許。自。認。為。中。國。之。屬。抑。且。守。泰。西。屬。國。之。義。上。國。既。為。保。
護。屬。國。必。相。聽。從。倘。法。與。我。戰。越。兵。必。隨。其。後。是。我。為。越。
而。越。却。與。我。為。敵。又。何。救。援。屬。國。之。有。哉。故。中。國。今。
日。不。戰。則。無。以。相。伸。認。為。屬。國。之。說。戰。則。又。無。取。乎。
棄。好。尋。仇。之。名。且。越。既。受。盟。城。下。而。思。前。劉。義。未。必。隨。
越。而。服。法。之。喪。師。義。實。為。之。今。既。得。越。亦。必。不。捨。義。
可知也。義。本。即。越。抗。法。今。越。屬。法。法。越。兵。將。與。法。人。

合。攻。而。義。踞。三。者。為。第。元。勢。難。出。而。圖。法。法。越。合。謀。
從。容。布。置。又。因。必。焚。則。義。亦。惟。突。圍。而。出。棄。入。中。國。左。
恭。西。之。例。凡。此。國。亂。人。道。入。他。國。不。能。能。遂。種。入。他。國。境。
法。人。或。猶。此。例。至。里。游。處。入。中。國。亦。即。罷。矣。但。漢。越。境。界。
既。無。撤。成。之。理。法。人。亦。可。藉。詞。以。招。納。已。叛。責。我。中。國。
而。必。欲。得。劉。義。而。甘。也。況。黑。旗。本。為。粵。寇。餘。孽。以。其。節。
派。三。者。無。援。于。越。而。後。入。更。以。其。為。越。抗。法。助。我。屬。屬。
而。德。之。身。越。為。法。屬。法。越。交。攻。窮。而。投。我。我。將。納。之。
乎。抑。拒。之。乎。自。法。人。尚。在。添。兵。意。圖。隨。剿。隨。散。
目。下。黑。旗。發。可。危。勢。窮。力。竭。舍。我。誰。依。正。不。知。辨。理。
邊。防。者。有。何。策。以。處。之。也。

九月十四日 報 二十日 年

九月十日

海内電報

○九月六日 龍動發 ○一萬五千支即於東京、煙霞、踏へり
 ト、報り ○佛國政府ハ強大ヲ核ル東京へ送遣ス、決定
 シリ ○清佛間、破裂切迫、勢ヲ以テ英國、到處皆
 其事ヲ論、頭、憂慮ノ氣色アリ ○龍動新聞ハ 英國、清
 佛、間、調停セサル可ラス、論シタリ ○清國公使曾紀沢ハ佛
 國政府、向テ再ニ談判ヲ續クニ、申シ、然レ、為、既、巴黎府
 歸着シタリ

九月八日 倫敦電 曾公使ハ佛國政府、由、漢、平、和、派、ヲ、言、シ、
 曾公使ハ、佛、國、事、件、ヲ、完、結、セ、ン、ト、シ、申、出、ス、リ、
 第一、法、廷、ニ、對、シ、

上海申報 九月八日 九月十日 上海後報

ナ、核、實、有

越南近信、更越南信懸、得云、華人九千名、槍砲、ヲ、帶、有、
 多佛人、千八百名、ト、與、相、攻、擊、シ、之、攻、ム、甚、久、シ、レ、モ、尚、ホ、其、孰、
 カ、勝、ヲ、孰、負、ス、ル、カ、定、カ、唯、佛、人、ハ、力、竭、シ、テ、警、報、ヲ、傳、テ、
 兵、構、ス、ル、不、知、法、人、ノ、據、シ、該、支、即、ハ、必、ス、中、國、暗、ニ、軍、械、ヲ、給、テ、
 之、ヲ、使、ヒ、生、テ、佛、兵、ヲ、攻、ム、シ、ル、ニ、シ、テ、此、信、息、頗、ル、的、確、ナリ
 右、申、報、アリ、昨、三、日、中、南、ホ、ト、シ、テ、支、即、兵、敗、北、セ、ト、電、報、ハ、乃、
 此、申、報、ノ、勝、敗、ト、ハ、レ、明、事

上海申報 九月十日

八月三十日 海防發、近報 支即兵一萬五千前、海東、到、
 海東、佛、軍、其、力、單、弱、ナリ、依、テ、急、ニ、海、防、ヲ、撤、兵、一、隊、ヲ、發、シ、海

東ノ佛軍ヲ助ケレムルハト云々見ハ過日秘動後ルイタテテ電報
ニ報道セシ支那兵ハ安南ヲ踰ヘタリト報ハ全ク虚説ナリ想ハ外確
實ナリ云々時事

昨日横濱ニイルノ報ハ佛人ハ安南ノ決戦於テ最後ノ勝利ヲ得タリ
電報昨ニテ日ハ着セリト云リ 此文面録簡短ニ河地ト云ハ不詳
時事

九月三日
時事新報

北報何出
重複セリ

九月十日上海後ノ報 三菱東京九十九日
佛軍支那兵交戦ノ別報

安南ノホリシテ一ノ支那ノ佛軍カ四ノ支那兵ノ戦テ大ニ之ヲ破
リ云々昨日ノ報ハ拍撃ト云々横濱ノ港東京九ノ海ニ
報ハ越々越南近信次日港上ノ西人越南信ヲ得ルモ其報ハ
葬人九ノ炮槍砲ヲ有シ佛人一千八百名共相攻撃シテ之ヲ攻
甚リ久シクモ未タ其勝敗孰ク決セテ不知唯佛人カヲ竭テ皆頭ヲ擡
任ハ但何處ニ在ラ構兵スルヲ和ラス疑ラハ真ニアラシカ法人曰ク該
支那人ハ其中國暗ニ軍械ヲ給テ之ヲ使シ使シ佛兵ノ攻ルニ係
此消息願ハ的確ナリト云リ 支那兵敗テ電報ハ乃チ由報載セリ勝
本月十日上海中報ハ八月三十日海防後ノ近信報ヲ登錄シ
支那兵一万余十前ニ海東ノ到海東ノ佛軍軍弱ナリ云々

青島公使
十月二十日英國海軍

宮内省

○海防より後兵一隊ヲ發シ海東佛軍ヲ助ケルニ記スル見
レハ或ハ支那兵ノ好南ノ境地ヲ踰ヘルニ事有ラレト歟

○清國政府ヨリ送リ國ヲ送リ其定遠清遠ノ二大艦ハ
永年ヨリ勿クシ國ニ送リシテ修ムル無組セテ回航ノ事ヲ定メ

石ノ島人天津ヨリ召留ムル氣艦ヲ遠テ上海ニ移シテ修ムル
九月廿日英公使ハリスル上海省風説ニテ李中堂ハ同公使ノ帶

滬中ノ事南事件ヲ就テ何カ協議ヲ遂ニ為ル急ニ上海ニ東ヘレトノ
電報アリ後場ニ確マラズ英公使ハ三島ノ東岸ニテ駐ルセリ

○李中堂目下天津ノ大沽トノ間ニ鐵道敷設セシト明ニ計畫中ニ在
成功ノ六更ニ之ヲ推前ニテ北京連接セシムル目算ナリ尤清廷ニ此義

ハ同意ノ様ナリ當時西遊中ニ招商局ノ總理唐景崧ノ歸國ヲ待テ第

ケルベシ

○天津通商條約ニ總領事衙門ハ安南使臣ヲ送リ返ス事ヲ決スル海安号
ノ載セテ先上海ニ向テ行ケ硬船ヲ求メ安南ニ歸ルニケル都立リトノ前使

ト稱シテハ副使ニシテ正使ニラズ其極モ同船ヲ送ルコト
○前使定遠号ヲ送ル水兵ノ載セテ返ル所ニ於テ誤聞

得テ水兵ノ貸費ヲ故ク收メ得ルニ懷遠号ヲ以テ天津ヨリ水兵
留人ヲ招キテ赴クコトヲ此交ノ事南ニ用ニ及ビ然レ歸程戒心アリ

○上海消息法トリク公使者七日電信ヲ以テ本國政府ニ事ヲ
所ク其軍事次第ヲ其北京ニ送リテ其風聞アリ

（昨日同武北上ノ所ニ横濱ヘラレト上海ニキキナリテ其後事ニモノヲ載ヘ左ニハ
本國政府ノ通信ヲ得テ其後程ニテ其事ヲシレカ）

宮内省

○佛國巴黎電報 シヤンピエ上皇頃化府、佛國特派節使
ロシ又ハリスハレシヤンツフ、オク、官ヲ受テ、又佛政府より安南
不日舞迄及送物ヲ贈ルルナラン

○安南王キキ、ガク、其子ロキ、ガク、立テ、國手、徳ヲ備ヘ、
従来、律例ヲ輕視シテ、内國會議ハ、ヒコ、ホア、ヲ推シテ
繼嗣ト為レ、世子ヲ廢セリ、王位、在リ、終、二日、シテ、遂、其位、
シテ

○ハリス、シヤンピエ、ハ、西、以、頃、化、府、道、ヲ、立、テ、府、民、法、方、ヲ、集、
佛國公使館前、以、放、テ、立、テ、敢、テ、敵、意、ヲ、表、ス、頃、化、府、近、傍、
亂、舞、暴、也、藩、條、ト、テ、婦、夫、一、家、人、ト、皆、深、シ、ク、
シテ

○安南兵佛國、向、東京、守、燭、を、シ、テ、黒、旗、兵、ノ、餘、數、

ヲ討滅ス、為、其、身、獨、存、用、を、シ、テ、王、ハ、此、約、全、を、為、
黒旗黨、長、ガ、カ、シ、ホ、リ、ク、及、其、勢、下、ヲ、將、校、ヲ、生、擄、シ、テ、時、ハ、頃、化、
府、佛、國、使、館、前、ヲ、放、テ、之、ヲ、凌、刑、ス、シ、テ、極、刑、ヲ、シ、
シ、テ、ハ、シ、テ、新、聞、紙、ニ、シ、テ、載、セ、リ、

九月二十日、新聞外國電報

佛清兩國兵、交戰(九月十七日午後十二時)於上海電報
報本月二十日、西日佛軍、予者、兵、以、清、兵、向
予人、リ、ボ、リ、ン、ニ、撃、テ、大、之、破、此、後、清、兵、奮、勇、討、之、
死、傷、甚、多、之、間、所、據、之、其、將、亦、傷、之、被、之、安、南、將、
之、戰、及、之、リ、又、之、思、旗、六、旋、佛、人、獲、之、所、之、リ、尋、之、
佛、軍、之、野、營、之、敷、之、ラ、ン、ニ、進、之、リ、官、報、
中、報、之、誤、佛、清、西、國、之、戰、事、之、有、誤、傳、佛、兵、支、那、人、之、戰

右電報、ヨ、シ、西、國、已、戰、端、南、中、先、明、多、但、西、國、公
然、宣、戰、之、處、置、之、リ、處、之、事、之、甚、奇、怪、之、以、是、分

ナリ、且、其、交、戰、ノ、原、由、性、復、未、シ、公、私、談、之、カ、分、明、セ、レ、
西、國、之、開、戰、ナ、リ、ト、認、見、亦、不、當、ニ、非、レ、ハ、シ

○九月二十日、新聞

外國電報

九月六日、倫敦發。○清佛兩國、談判、破裂、衣、之、至、リ、モ、ヤ、セ、ン

於、上、當、地、之、人、人、此、事、ノ、ミ、ウ、心、配、シ、議、論、區、ニ、ナ、リ

同日七日、同所發。○倫敦諸新聞、清佛間、葛藤

ノ、調、停、ヲ、英、國、ヲ、為、ス、ト、然、レ、ベ、シ、ト、信、セ、リ

曾紀沃公使、談判、ヲ、取、リ、續、ク、為、ス、巴、黎、ニ、歸、ラ、セ、リ

同日八日、同所發。○曾公使、佛國外務卿、シ、テ、
親密、之、面、會、ヲ、致、シ、清、國、が、安、南、ノ、主、權、一、條

ト境界ヲ畫スル事ニ條ヲ協議ノ上ニ相定ムル旨ヲ
申シ出ラレタレバ佛国外務卿ニ快ク之ヲ承諾セラル

二十一日日新聞

佛國軍ハ安南ニ於テ最後ノ大勝利ヲ得ル旨昨日着
電報見ヘタト昨日ノソール新聞見ユタリ

二十一日日新聞

佛軍敗報 昨日ノ紙上、佛國ハ最後ノ大勝利ヲ得ル旨
ヲ記載セシガ一昨日又ソール新聞ノ得ル電報ヨレバ佛軍
再ニ黑旗兵ヲ為ニ破ラタリ又佛人ノ中ニ理事委員
ト提督クルバイハノ間ニ内務ヲ生テ終ニ相協スル
ベト提督ハ所詮本職ハ其任ニ堪ヘズトテ部下ノ士卒ヲ打

此敗有二三
ノ事ナルベキ歟

子報
「ガ」ハ「ハ」
「フ」ハ「フ」
「ア」ハ「ア」

素テクマ、本國ニ歸向スレタリトテ實事ハ不審シ

支即行況

張樹聲ハ廣東ニ赴ク時部下ノ軍士數万人ヲ率ヒ山岳
ニシテ其威儀當ヘカラサル有様ナリシ

清廷日下雲貴州ノ防禦ヲ外ニ他事ナキモノノ如シ役軍
務ニ熟達セリト聞ヘ高キ布政使唐炯ハ巡撫トナシテ
雲貴總督岑毓英ハ補佐トシテ發遣セラレタル其意ハ
有ル所ヲ規スベシ雲南ノ邊防ニ餘カク遺テトナシモ
可ナリ

二十一日日新聞

一昨、難報中佛軍敗報ト題セシ一項ハ佛軍ノ中ニテ内務ナリ

官内省

生セント事ノル新聞、見エシ旨ヲ記セシガ右ハ少シ事實ノ
異在所アリトテ又同新聞、正誤カニ處ラ見セ佛軍ハ黑旗兵
ノ為ニ敗ラシ名ノハ實事ニシテクルルベリ提督ハ自己ノ地位ヲ
保タシ到底難カレベシト申サレ此兵黑旗軍トモ別ノ談判ヲ
開ク方然レベシ、理事員ハ忠告セラシニ理事員長ハ己ノ氏
ハ之ヲ拒絶セラシヨリ同地ノ文武両官ノ間柄モ何トナク不知
様ニナリトアリ仍テ又後ニ正ス

右宗棠新募、楚軍二千名ハ全隊民船坐テ九月留テ後四時
頃上海着シ老開近傍ニ泊ス船數約二百餘艘其兵深藍色ニ赤
縁ヲ取りシ號衣ヲ着シ督標新兵並前後營左右營等ノ字
ヲ記セリ此兵皆吳淞江ニ住キ招商局ノ日新、富有、扶北等輪

九月廿

於テ廣東ニ赴キテリ 上海新聞 或ハ云テ是ハ吳淞江ノ船ヲ新募ノ兵ハ之

天津ヨリ大沽ニ到リ鐵道ハ已ニ築造ノ模樣アリ唐景崧
ノ歸國次第着テスベシ天津ヨリ北京迄ノ鐵道ハ其費用
浩大ナリ云ヘドモ其費益ハ實ニ鮮淺ニ非ト其筋ヲ追ハ
津行スベキト天津ヨリ通津ノ事 官報

四月

五月

六月

七月

八月

九月

十八日 三ノ上佛兵頭化初ヲ提督能ニ成下盟ヲ為ス

一日 三ノ上 東京河内道ニテ佛軍法兵ノ開戦佛軍十分ノ勝利ナリ
 佛軍河内ノ内ニテ直ニ佛軍ノ以テ接兵ヲ本國ニヤレタリ
 六日 七日 八日 佛軍無抵抗ニ使領事ヲ巴黎ニ向テ外務卿ニ談判トモテ
 十三日 佛軍河内ノ内ニテ直ニ佛軍ノ以テ接兵ヲ本國ニヤレタリ
 二十日 佛軍河内ノ内ニテ直ニ佛軍ノ以テ接兵ヲ本國ニヤレタリ
 二十一日 佛軍河内ノ内ニテ直ニ佛軍ノ以テ接兵ヲ本國ニヤレタリ
 二十二日 佛軍河内ノ内ニテ直ニ佛軍ノ以テ接兵ヲ本國ニヤレタリ
 二十三日 佛軍河内ノ内ニテ直ニ佛軍ノ以テ接兵ヲ本國ニヤレタリ
 二十四日 佛軍河内ノ内ニテ直ニ佛軍ノ以テ接兵ヲ本國ニヤレタリ
 二十五日 佛軍河内ノ内ニテ直ニ佛軍ノ以テ接兵ヲ本國ニヤレタリ
 二十六日 佛軍河内ノ内ニテ直ニ佛軍ノ以テ接兵ヲ本國ニヤレタリ
 二十七日 佛軍河内ノ内ニテ直ニ佛軍ノ以テ接兵ヲ本國ニヤレタリ
 二十八日 佛軍河内ノ内ニテ直ニ佛軍ノ以テ接兵ヲ本國ニヤレタリ
 二十九日 佛軍河内ノ内ニテ直ニ佛軍ノ以テ接兵ヲ本國ニヤレタリ
 三十日 佛軍河内ノ内ニテ直ニ佛軍ノ以テ接兵ヲ本國ニヤレタリ

九月二日

東京日新聞 外國電報 譯語正不正

○平八日 八月八日時事

九月廿日倫敦發(橫濱刊行メル新聞)

佛國外務卿ニシテラクルル氏ハ内閣ニ告テ陳ヘラレ、英佛清

兩國間和議ノ模様ニ萬事曾公使ノ方ニ都合好ク運ビテ

且我政府ハ元ヨリ平和ノ政略ヲ決シテ變ゼハル事ニ決意セリ云

トアリ

△佛國外務卿ニシテラクルル氏ハ内閣ニ告テ陳ヘラレ、英佛清

兩國間和議ノ模様ニ萬事曾公使ノ方ニ都合好ク運ビテ

且我政府ハ元ヨリ平和ノ政略ヲ決シテ變ゼハル事ニ決意セリ云

二〇曾公使并英國駐紮ノ佛國公使ハ英國外務卿ニシテ公

評議所ヲアラシガ為ニラトラー(未詳)ニ出向レタリ

佛國

三月廿一日 外務卿

三月廿一日 外務卿

三月廿一日 外務卿

大統

三月廿一日 外務卿

宮内省

△清國公使曾紀澤及英國駐在佛公使ガロウキンソン氏ニ英
國外務卿 グレンガール侯ト相談、廣クテ共ニニトシテ(疑フベシ)
ハ赴キタリ

三月廿一日龍動慶

一曾公使并佛國駐紮英國公使ガロウキンソン氏ニ佛京
巴黎府ニ歸任セラレタリ

△曾紀澤ガロウキンソン氏ノ両氏ハ共ニ巴黎府ニ歸着セリ

二佛國外務卿ニシテ、ラクル氏ハ休暇ヲ賜ハリ宰相ジールヘリ
ガ佛清間ノ和議終結ノ任ニ命セラレタリ蓋シ世人ハ是著事
ヲ以テ和議ノ調整ヲトシ足ル者ナリトイセリ

△佛國外務卿ニシテ、ラクル氏ハ賜暇ヲ得、宰相ジールヘリ

パール

ハ賜暇ヲ得、清佛間ノ談判ヲ完結スベキ命ヲ受ケタリ世人ハ一
級若ク事實ヲ以テ清佛和親ノ兆候ナリトセリ

九月二十日龍動慶

一佛國諸新聞ハ其テ東京征討ノ軍卒ハ一頭司令官ヲ
戴カレ可ラザル旨ヲ主張セリ

佛國新聞ハ異口同音、東京遠征ノ佛兵ハ一將ヲ以テ之ヲ統
率スベシト論セリ

二又、一千人ノ援兵ヲ東京ニ向テテ發遣セラレタリ

三一千ノ援兵更ニ東京ニ向テテ出發セリ

三永師提督クルベール氏ハ今度刻ニ東京征討軍ノ獨任司令
官ニ特命セラレ、將軍ブローニ、雨來其指揮ヲ受ケルヘカラスト

宮内省

三月廿一日 外務卿

パール

命セラレタリ

△佛國水師提督クルベール東京遊兵全軍ノ總督ニ任セシ

將軍ガリエルハ其職ヲ免セラレタリ公報アリ

去ク九月二十日カボ出タリアリ多ク要ルカ生

東京河内北岸カボノ法佛兵隊ノ一ニ法兵敗却ルカ
法兵モ備兵ヲ増シ檢子且黒旗兵隊カボカボカボカボ
事申 不詳生シザリ 一カカカカ

十月日官報
官報
七月二十日元老院
議官
外務卿向谷

九月二十日 時事

トリウウ公使 豫テ香港及上海ヲ巡航セシ佛國軍艦ニセシ

號本月十三日同地ヲ發シ東京河内ニモ該艦ハ東京事件ニ関

シテ清國駐在ノトリウウ公使ヨリ水師提督クルベール氏並ニ全權

大臣ハリスルハ傳ス 訓令ヲ推却セリト云ハシ又トリウウ公使

支那政府トノ談判ハ先南滿足セラ得ズ支那政府ニテ更ニ佛

國駐在曾紀澤公使ニ電報ヲ以テ佛國公使ヲ召還シ代ハシ

別入ヲ以セシト懸念シテ風説アリ又トリウウ公使ハ本國ノ海

軍省ニ上申シテ大ニ佛國ノ海師ヲ上海ニ集メ水軍ノ概略ヲ為

シ支那人ノ心膽ヲ寒クシテ大ニ省悟ス所アリト云ハシトノ策ヲ建テ

トモ云ハリ

紐育ハ新開ノ北京城ハ清国内ノ最モ危險ナル都府ナリ
 露國其邊境ヨリ進攻セバ週日ニテ帝都達シ英國ハ又太
 沽ノ砲臺ヲ破ス容易ニ入ルベク且一旦敵國ヨリソノ
 運河ヲ扼ス忍々饑饉ニ迫ル免ス若シ戰爭起ルニシテ敵國
 ノ攻勢ヲ避シセバ清帝ハ豫中豫東ノ地ヲ失ハルベク然レ中
 至ラ具臣民蜂起ス之ヲ戕殺スベシ若又北京ハ盟約セシカ
 ヲ敵國ノ劍ハ伸セシキ必然ナリ清帝ハ刻不容緩ニ其
 免ルベシ

時事新報 九月二十七日

清國上海通信 (去ルナリ上海警報此日名横ノ三菱汽船名古
 丸便ニテ得タルモノ) クシク上海ニ滞在シ世人ヲシテ其進退
 疑ヲイカセシメタル佛公使トリクイ氏ハ去ルナリ三日船ヲ東
 亞洋ヨリ到名ニ居名佛公使軍艦ウアルター号ニテ搭シ太沽ニ向ケ出帆
 シタリ也日所ヨリハ直ニ上陸天津ヲ徑テ北京ニ赴ク部合
 ナリトカ乘船ノ中ハ巡査十名及止揚ニ居列ビウアルター号ハ
 祝砲十五発ヲ放テ中々盛ナル目撃セリ右トリクイ公使ノ北
 ハ就初ヨリノ来信ニ曾公使ハ佛廷ト是安南境界ノ談判ヲ
 議スレタリトアルヲ以テ尚ホ北京ニ出テ其議案ヲ取メトナル為メナ
 ラントノ噂アリ又先以來滬ニ在る香港太守ジラルヅブラウン氏
 同日北京ニ向ケ發程シ英國公使パークス氏ニモトリクイ氏ニ後ル一日

九月十日法公使
 トリクイ氏上海向
 北京
 盟約 乘船後ハ
 パークス氏上海向
 北京

官内省

去北西ノ早朝ヲ以テ英王軍艦ウイジランド号ニ乗組北東へ
向ケ出發シタリ今後ハ支那ノ外交上ニ如何ナル事相ヲ呈スベキヤ
英人ハ領ヲ延シテ其結局如何ヲ待テハシ○北東來信曰ク順化
府没落ノ不報一度当地ニ達スルヤ人心頗ル激動シ皆扼腕シテ
今ニモ佛人ト雄雄ヲ交セントノ意元込アリ政府モ汲々トシテ兵
備ヲ怠ラス已ニ直隸總督ハ日ニ軍糧ヲ用意シ不日大ニ精兵ヲ
廣東ニ派出セントノ企アリト云フ併シ今ク戰意アルニテテ杯トノ汎
モアリ如何ニヤ○又同書ニ依レハ客年ヤヨリ奉天府ニ幽セラレ居タル
朝鮮大院君先王ヲ爲死シタリ云マリアリ去レバ先以テ專ラ世上ニ
取ルハ込シ名曰君死去ノ決モ全ク実花ニテアリシ也○漢口地方ニテモ
匪徒暴挙ノ兆アリトノ噂ナルカ一兩日前所ヨリ入港シ先抗ル如

果号船モノ話ニテハ向船ガ該地ヲ出帆スル由ニ未ダ前住ノ矣
状モナアリシガ一體ノ人心何分穩カチガル有様ニテアリト○西江
總督在民ノ依頼ヲ受ケ上海ボエド及フハレシムル爲會社ニテ製造
中ニシ軍艦六艘内ニ艘力テ此口(去ルルル)落成シ直ニ進水シタリ
今更艦体ノ構造ヲ聞クニ何レモ長二百三十六尺濶三十二尺深十二尺艦
砲台一坐アリ重五噸ノターレット砲三基ヲ備スベシ又艦尾ハ
共ニ六間ニテ其中兩艦ニ食物ヲ納メ頭艦ニ水師兵五十名後艦
ニ水手五十名ヲ容ルベク中艦ハ官吏ノ居所ニシテ又兩側ハ則チ茶
障丸ノ倉庫シ○招商局ハ例規ニ寄リ數日前此年九月ヨリ
本年九月迄一ケ年間ノ會計決算ヲ報告シタリ
○佛國政府ノ訓命 佛國政府ハ以頃電投ヲ以東京ノ全權使節

百一十の
佛兵支那兵
戦争

ハ、マ、レ、氏、訓令ヲ傳ヘテ曰ク佛兵政府ハ深ク卿カ奏セシ功績ノ結
果ヲ謝ス由テ卿ニレジョクマスオノアノ爵ヲ授ケ後官ニシム
ビニテ順化府ノ理事官ニ任ズ猶安南駐劄ノ佛兵特使全權公使
ハ追テ選任スヘシ卿カ編盟セシ処ノ條約ハ唯議院ノ決議ヲ
待テ批准スヘシ安南国王ニ贈寄スル勲賞贈物及ビ派遣ノ傳教
師ハ次回ノ船便ニテ支地ニ送遣スヘシ云々

外國新報

東京戦報 本月一日佛軍二千餘ノ兵ヲ率ヒ佛兵軍艦フルーヅ
井ルレラバトナルライズ、エニール、トロムベト、ヤカニルリニルの諸島
搭載シテ江河ノ湖ノ河内ヲ距ル一七英里山西ノ下流十六英里ノ
所ありラントシテ黒旗兵ノ壘地ヲ砲撃シ兵ヲ此地ニ上ケ黒旗

兵ト小戦好むる及べリ、(ラン)地ハ河内ト山西ノ間ニシテ河内
山西兩地ノ距離ハ二十英里ナル由)翌二日三日又敵兵ト戦ヒ頗ル
激戦ニ及べリ佛兵ハ常ニ河流ノ軍艦救艘後援トナシテ敵ヲ撲撃
スルカ故ニ大ニ勢カラ得敵兵ハ又堅壘ニ據守シテ死戦シ又戦ヒ頗ル
巧ミシ數度ノ挑戦ニ敵兵ノ損セシモノ少カキ共現兵ハ頗ル多數ニ
又勢ト甚カ盛ニナリ且敵ハ高地ニ據リ佛軍仰テ之ヲ攻ムルガタメニ
自由ノ衝キラナス一能ハズ一度ハ佛ノ一隊首先ヲ揃ヘテ敵壘ヲ攻メ
為ニ敵ノ壘上ヨリ俯視シテ痛ク石火ヲ放テタル砲聲佛軍ノ頭
上ニ陸軍一隊ノ中ニテカヒタンメジョル、の二官及ヒ一率ノミ僅ニ微傷
ヲ免ト他ハ負傷ノ為メ戦ハスニテ退キタルトモアリシ程ト云ヘリ斯レ
三日ノ間ニ敵兵ハ其勢次カニ増加シ五千餘人ニ及ヒタハ其威勢當ノ難

總督ブライヤル

併軍ハ兵ヲ返スノ得業ナルヲ悟リ、死屍ヲ葬リ、又一星ヲ河上ニ築キ、二百人ノ兵ヲ留テ、以て處ヲ守ラセ、他ハ皆河内ニ引上タリ、此役軍佛ノ死スル者一百人、以て戦ハ、黃旗兵モ佛兵ニ後ヒシカ、是モ若干ノ死傷アルヲナレハ、以て戦争ニ佛軍ガ敗セリト云ベキカ、頃テ總督ブライヤルハ飛電ヲ以テ六千ハ援兵ヲ本國ニ求メタル由ナリ、附テ云フ去ル廿日ノ本紙上、本月一日二日ノ西日、一十五百ノ佛兵、清兵四千ヲホーシ、ニ撃テ、大ニ之ヲ破リ、尋テハランニ進ミタリ云々ノ電報ヲ官報ヨリ摘載セシカ、前文ノ戦報ハ同ク一日二日及ヒ三日ノ戦争ニテ、且ツハランヨリ云々モアルナレハ、蓋シ此ト同一ノ事ニテモアルカ、

外國電報 日、新聞 九月シナ七日

九月五日倫敦發 以て頃清國政府ハ佛國ニ對シテ一歩タモ讓ルベカ

ラストノ政略ニ決定シタルヨシノ風聞アリシニヨリ、佛國諸新聞、頻リニ清國ニ向ヒテ抗敵ノ意ヲ表シ、續々東京ニ援兵ヲ差向ニシ、今日ノ急務也ト論シタリ (又トル新聞)

同月十四日同所發 清國ト開戦ヲ非トスルノ議論益々多クナルニ依リ、内閣ニテモ議論不協ノ風説アリ、(以て一報ハ前ノ報ト齟齬セリ、讀者日附ニ依リテ考ルベシ)

同月三日巴黎發 佛國內閣ハ直ニ援軍ヲ西貢ニ送ルベシト決定セシメタリ

同月五日同所發 運送船ニヨリシテ、其他ニ艘ヲ援軍二千ト兵器糧食ヲ東京ニ運送スベキ事ナリ

雜報ノ内

清國兵備一斑 日取モ近キ十八ヶ月ノ間ニ米國桑港ヨリ清
國ニ向ケテ輸出セシ兵器彈藥ノ價格ハ總計五百萬弗ニ上リト云フ
安南彙報 佛國ハ順化府ヲ陷レシ後同府ニテ和睦ノ談判ニ取リ掛リ
シ時安南ノ官吏ノ云フ此條約文中ニ清國ト安南トノ關係ニ付キ
テ何トカ書キ載セ置キタントアリケレバ佛國官吏ハ乃チ其需メニ應ジテ
安南モ佛國モ共ニ清國ノ安南ノ上ニ有スルト稱スル主權并ニ保護
權ヲ認メガルベシトノ旨ヲ記載シタリ夫レクローベル提督ニハ直ニ
令ヲ佛艦ニ傳ヘテ若シ清國ヨリ安南新王ニ授クキ封冊ヲ携ヘ
ル使節ノ乘リ組メル清國軍艦ノ来ラハ直ニ傳令スベキニ付キ
其軍艦ヲ攻撃スベシト達セラレタリト云フ又此度即位ノ新王ハ
御齡ニ十七ニシテ常ニ佛蘭西黨ニ肩ヲ入ラレシ御方ナリト聞ク

又順化府ノ役ニ安南人ノ討死千二百人佛軍ノ俘虜成シモハ
三百人ナリト云フ

九月十六日

越事傳聞 ○香港循環報曰越南之事近因法人封禁海口不許船艘往來并不准報館採訪人探聽消息以致邇來情形總不得確耗惟據商人從海防等處回者口述其事略悉端倪至中國傳報軍情則改由粵西陸路馳遞而道路遼遠峒山阻隔非旬餘日不能得有所聞此真令人盼望待勞也故即傳說之詞亦必備為後日之驗有聞必錄之否不暇審詳蓋日報之體然也茲又聞法軍與黑旗戰於順化時有統兵大員為黑旗所獲法人欲為贖回黑旗謂須備五百萬元及將戰船數艘繳出乃允所請又傳法人因其軍屢敗艱資戰守連奉文書回國告急請速調大軍馳赴越南相助焉此皆得自傳聞難以臆斷確否姑照述俾供眾覽並質諸知其事者

迺

者又維新日報云前錄西人由西貢遞來信息并英都倫敦發來之電音皆謂越南与法國議和於七月廿三日業已簽立和約惟近聞有与此事大不相同者據言法人約有兵八百起程登岸并攻据奪沿路炮臺數座并已攻入順化之城忽有鼓角齊鳴黑旗之兵出而斷其後路法軍盡力拒禦鎗砲迭施而黑旗之兵勇氣奮迅一往莫禦火器精良發無虛擊遂將法軍圍困除鎗砲夷斃外斬俘折敵如割鷄焉如割羊豕其冒險突奔得免性命逃回法營蓋突之數十人耳此事亦亦蘇芝火船抵港傳聞之消息也而法人軍報每謂越王請和甘心立約以宣布于遐邇是何異於掩耳盜鈴耶

海外電報

九月廿九日時事新報

九月廿六日龍動發 佛國タ新新聞ハ一報ヲ公ニシテ曰清國政府ハ英國ノ威權ヲ假リテ佛國ハ紅河ニ至ルマテ安南ノ地ヲ領シ清國ハ東京其他安南ノ全地ヲ自屬スベシト申シ出シタルニ佛國ハ之ニ反シテ紅河ノ下流三角田ノ全面マテヲ領有スルヲ要求シタリト

外國電報

九月廿九日東京日々新聞

九月廿六日倫敦發 佛國タ新新聞ニ清國政府ハ英政府ヲ勸誘ニヨリ安南ヲ中分シテ紅河以南ハ佛國ニ屬シ以北ノ地ト東京府トハ清國ニ屬セシメント發議シタリシニ佛國政府ハ尚ホ紅河三叉口ノ諸島ヲモ殘ラズト占有スベシト主張セシ旨記載アリト(マイル新聞)

陽曆七月十日
八月三日
岑帥

九月廿七日東京新聞外信内

清國ニハ安南一件ニ付何カ内心ニ企ツル所アルニヤ不相變内々兵備ヲ整フルガ如キ模様アリノ外間ノ説ニテハ左宗棠氏ニハ己ニ去清七月一日ヲ以テ彌々此終ニ安南ヲ佛人ニ與フルハ中國ノ面目カ立サルヲ以テ決然開戦ニ出ント激烈ナル一摺ヲ奏上セラレタリト云ヒ又雲貴總督ノ岑氏ニハ己ニ五萬ノ兵ヲ募リ同清七月廿五日ニ其先鋒一萬五千名ヲ越南ノ國境ニ臨マシメラレタルヲ以テ佛軍ニモ大ニ恐レ即時一小輪船ヲ登シ一隊ノ兵ヲ海東ニ調派シ同處ノ在留人ハ尽ク其家什ヲ携ヘ絲々乱ヲ避ケタリト云ヒ又西廣總督ノ張氏ニハ豫ジメ佛軍ノ鋒ヲ挫ヤント十萬ノ兵ヲ募ラルハガ先ツ廣東省ニテ六萬人廣西省ニテ四萬人ヲ招キ國境ノ要害ニ之ヲ散布シテ軍ヲ布シメ西貢總督ニ密諭アリ同省ニテ六萬人

官内省

ヲ募リ辺境ヲ固メンメラレタリト云ヒ又以軍餉ノタメ廣東ニテハ捐
職ヲ用ヤレタリト申傳フニガ如何ニヤ併シ過日浙江ニテ新タニ募リ
タル兵ヲ更ニ乍浦ニ移シ海防ヲ嚴ニセシムルモアレバ或ハ廣東西雲南
ノ辺境ヲ固ルノ策ヲ講セシ事モ謀ラズ且ツ福州船政局ニモ各兵
艦ハ修葺ハ己ニ律ニ竣功シ軍器局ニテハ夜ヲ日ニ次ギ兵械ヲ製
造シ居ル由ニテ己ニ落成セシ一軍艦ハ鐵製ニテ實噸一千六百噸
ヲ容ルニ足ル噸ル堅固ナルモノナリ不日ニ猶一艦ヲ落成シ共ニ水雷
ノ用ニ使用セラルモナリト云フ又當地ニテ隨造セシ浮砲台船モ
漸ク昨ナ七日ニ下水ヲナシ此亦外國人ノ船廠ニテ作りタルモノナレバ
一層堅固ニテ其長サ百三十三英尺中三十六尺深サ十二尺上面ニ十二
噸ノアームストロング砲一門ヅヲ架スベク艙房ハ六間ニ分チ前艙ト

後艙トニ兵卒五十名ツヲ入レ中艙ハ士官ノ部屋トナリ其兩傍ヲ
藥庫トナセリ右全ク仕上ゲタル上高昌厝ノ江南軍機製造所
回シ大砲ヲ据ヘ付テ由ナリト又福州ノ電線モ己ニ去清八月言ヲ以
同全省ヲ落成シ其監督ノ余昌宇氏ニ分水関ヨリ潮州ヲ過ギ同六
日ニ汕頭ニ著シ同處ニ十數日間逗留シテ事ヲ便シ更ニ惠州ヨリ廣
東ニ赴カル由ナレバ同線モ案外キ早ク線路ヲ擴延スベシト存ゼラル

(以下次号)

時事新報

十月一日雜報之内

フー工將軍 東京佛兵總督フー工將軍が本國ヨリ召還セ
ラレシ由ハ既ニ本紙上ニ登載セシ處同氏ハ去月十七日汽船南
蠻号ヲテ海防ニテ香港ニ倒著シタル由猶ホ同港ヨリハゲンナ
号ニテ不日馬耳塞港ニ發向スベシ氏ハ河内ニアルヤ其名望頗
高ク軍人モ大ニ帰服シ居タルノ事ナレハ同氏ノ帰國ハ東京ノ
佛軍ニ多少ノ影響アルベキト思ハル

同報 同月同日外國新報

安南非清國之所屬 安南國王ハ今度佛國政府ニ爾來國王

ヨリ直接ニ清國皇帝ト文書ヲ交換セラルベシトノ約束ヲ立タリ
ト九月二日巴里府発ノ近報ニ見ヘタルガ是ハ取モ直サズ佛國清府ノ
承諾ナシ忍ニ書ヲ清國ニ通スルヲ禁セラレタル者ナレハ清國モ自
今ハイヨク以テ安南ヲ所屬ナリト争フヲ能ハサルベキナリ

東京日々新聞 十月一日

征東都督ブーエー將軍 過日ノ電報ニ佛國水師提督クルール
ベー氏ト同理事員長ハルマン氏ノ間ニ不和ヲ生シ提督ハ断然
印綬ヲ解キテ佛國ニ帰向セラルベシト見ヘタルハ人コソ違ヘ其事
ノ實ナリレハ佛國ノ為メニ惜ムベキナリケリ蓋シ其不和ハ征東

都督ブーエー將軍トハルマン氏ノ間ニ起リシ事ニシテ元來ハル
マン氏ハ帳中ニ坐シテ事ヲ理ルニ長シタル人ナレハ軍機ニ與
ハリモセネハ自ラ之ニ熟セラレテバブーエー都督ガ墓々ニキ戦ヲセ
ヌラモトカシク思ヒ順化府ヨリ海内ニ歸リテブーエー都督ニ面
セン節將軍ニ何トテ未ダソシタイを陷ル、一能ガル斯程ノ敵ニ
怖ル、様ニテハ御手並ノ程モ思ヒヤラレ候ト申サレシヲ聞クブーエー
ハハット迫立已レ軍機ヲ知ラサル奴カ入ラヌ口出シ刺ヘ寡兵ヲ我
ニ與ヘナガラ糧食サヘモ饒ナラヌヲド左ル墓々ニキ戦ノ出来ベキ
ゾト口ニ出シテ争ハントハシタレハイヤ、我未大功ヲ立テサルニ狼リ
ニ内探ヲ生ジテハ國家ノ為メ宜シカラストヤ思レケン忍ニテ其場ハ
黙セラレタリシガ目醒シキ一戦シテハルマン氏カ魂ヲ奪ヒ吳レントテ

頃テ本月一日ヲ以テ將軍ハ自ラ寡兵ヲ引率シテソンドンタイニ撃テ
出テ大ニ黒旗軍ト戦ヒシニ勝敗ハ時ノ運トハイハ又候不覚ノ敗
ヲ取りタレバ何トモ面目ナク去リトテ此後ニオチ棄置ナバ又モヤ大
敵ニ逆寄セラレテ佛軍再ヒ大敗ヲ孰ラシテ一必定ナリトテ止ムヲ
得ズ尚ホ一万二千ノ援兵ヲ至急本國ヨリ差向ラシタキ旨理事
員ニ請求セラレシニハルマン氏ハ其事ヲ通セサルノミカ最ハヤ援兵
差向ケニ及ハサル旨ヲ本國政府ニ電報モテ云ヒ送ラレタリ斯レ
聞クヨリブーエー將軍ハ憤怒ノ念遣ル方ヤク此上ハブーエーカ及バ
ズ佛軍ノ指揮ハ餘人ニ任セラルベシトテ断然都督ノ印綬ヲ解キ
去ル十五日ニ突然帰郷ノ途ニ就レタリ此争ノ原因ハ固ヨリ彼地ノ
凡評ニシテ信偽如何ハ保シ難クモ西氏ハ間柄ノ不和ナル事ハ實ナ

坊
ブーエー將軍ハ久シク佛
共ニ總督ヲ河内ニ
存シ
迎ハハルマン氏理事
員長ニテ海軍提督
グーベ氏ト婚シ煥化
府来リ一戦ノ下
頃化府ヲ落シ河
河内ニ向リ故グーベ
ハ其英奇當
遂ニ佛國政府ヲ頭
司令官ヲグーベ氏
命ヲブーエー將軍
ヲ解任セリ
此後ノ形況如何
アルキヤ
ナレ

リトカヤブーエー將軍ハ軍事ニ老練ノ良將ニシテ士卒皆將軍ニ
服シタル由ナレバ此度ノ不和ハ佛軍ニ執リテハ不良ノ結果ヲ生ズ
ナラント人々ハ憂ヘ居レリ將軍去リテ後佛軍ハ指揮ハ當分コロ
子ルビゾー及ヒ同バデンのニ氏之ヲ司ラル、由ニ聞クブーエー將軍ハ
先ニモ去ル如ク去ル十五日ニ海防ヲ立テナムヒヤン号ニテ十七日ノ夜
ニ香港ニ著セラレ十九日ニ又セマー号ニテ本國馬耳塞ニ赴ケタルヨシ
胡虜ヲ平ケスハ生テハ帰ラジト誓ヒシ志シノ程モ中途ニシテ阻
隔セラレ切ナラスニテ快クトシテ郷ニ帰ラル、將軍ガ心ノ中コソ哀レ
ナレ
黒旗軍ノ勢力 本月十五日海防各ノ通信ニ拙者ハ近頃佛軍
ノ為メニ最モ悲ムベキ報道ヲ為サルベカラスハ是レマデ佛軍ガ歩

兵及と砲兵ノ二隊ヲ以テ護衛シタル彼ノ新築ノフアラシク堡塞
ヲバ打捨テ、終ニ敵軍黒旗兵ノ手ニ陥レル、不幸ニ遇ヒタルノミ
ナラス海内郭外ニ於テ是レ近佛軍ノ占屯セシ諸地方ヲモバコトガ
除クノ外ハ悉ク敵軍ノ為ニ追ヒ拂ハレタル事是レ也黒旗軍ノ
此頃ノ勢ハ只ニ止リテ防クニアラス愈々進デ戦フノ勢ニテ今テヤ
將ニ海内ヲ指シテ漸次進軍ノ勢ヲ示セリ去ル五月十九日ノ激戦ノ
比ニハ黒旗軍ノ數モ僅ニ三千ニハ過キザリシガ今日トナリテハ一カ五千
ノ大軍ト成リフーバイ地方ハ既ニ其手ニ復シ海内復此ノ大軍為
メニ圍繞セラル、実況トナリヌ加ニバクミン地方ニ於テモ五百乃至六百ノ
黒旗軍既ニ到著シタリト云ヘリ是レヲ以テ佛軍ハ其居留地ヲ防禦
セン為メ居留地對面ナル紅河ノ岸ニ於テ新メニ堡塞ヲ建築最中

ナリ斯ル有様ナレバ海内ノ近況ハ是迄ヨリ遙カニ危険ノ位
置ニ陥リタリト云ハザルベカラズ云々ト見ヘタリ

時事新報 十月一日 外國新報

禁武裝條約 北京在留トリスウ公使ハ此程清國政府ニ爾來
清國ノ人民ヲ東京ニ於テ武器ヲ常有ス者アレハ此ヲ海防討スベト通牒シ
タシ清國政府ハ此ニ答テ自國臣民ノ東京ニ在ルモノニ武器ヲ常有ス
ルヲ許シモ一カハ敢テ差支ヘラス其武器ヲ概シモハ海賊トシテハ固ヨリ
自國ノ關スル處ニテラスハ明言セリ又東京駐在佛國全權大臣
ハ「マンハ」頓化府ノ密條約ニ基キテ自今ハ佛軍ニ抗シテ武
器ヲ帶スルモノハ嚴ク禁止スル為メ及フベシト告示セ出シタル由

此清佛兵器常備各一乃廿十清兵北越境のありは
他ノ事ヲ供スル

時事新報 十月二日

海外電報

九月廿八日龍動登 清國政府ニ佛國ノ申出シ(紅河ノ下
流三角田ノ全面ヲテラ領有スルノ要求ナラシク)ヲ承諾
セズトノ報道アリ

同報 外國新報

佛國文武官ノ不和 安南駐在佛國文武官ノ間ニ不和ヲ生
シタル由ハ既ニ本紙上ニ報道セシ処ナルガ去月十五日海防登ノ
報道ニ依ルニ佛國使節ハマン氏ト軍務總督ブーエ氏ト
互ニ相嫉惡セシヨリ其僚屬ニ至ル迄モ亦互ニ相和セズブーエ氏
ガ軍務上ノ運動モ自然都合宜カラザレバ斯クテハ何時ニテ安南ニ

留ルモ佛國ノ利益トナラサルニナラス文武ノ軋轢益激シテ其
地位ヲ失フヲモ至ラバ一身上ニ取りテモ甚々覺束ナキナリト
覺悟シブーエ氏ハ断然其職ヲ辭シ香港ニ立寄りテ直ニ
帰途ニ就クトナレリ然ルニブーエ氏辭職ノ一件佛國ニ取
リテ一大不利ヲ惹キ起シ来ラントスルノ兆候ヲ現ハシタルハ他事
ニモアラズ此報早クモ黒旗兵ノ耳ニ達セシカバ一時其氣ヲ沮喪
シタル兵士等ハ天ノ幸ト勇ミ立チ此機ニ乘シテ佛軍ヲ一撃
センモノト急ニ陣營ヲ縮シ又其散兵ヲ整ヘテ大ニ其聲勢
ヲ張ル由ナレバ河内ノ近傍ニテ再ビ安佛ノ一戦ヲ試ムルナラン
佛軍ノ氣勢ハ海防ノ近辺ニテモ亦頗ル下リタル様子ニテ支那各
安南ノ海賊ハ存リニ其辺海ニ出沒スルヨリ海防ノ住民ハ安南ノ

警吏五十人ヲ新募シ速ニ之ヲ退治セントセシガ却テ海賊ニ
反撃ヲサレ一戦ニシテ全敗ヲ取りタレバ安南駐在ノ佛國文官
ハ頻リニ黒旗兵追討ノ計畫ヲナシ居ルト云フ

東京日ニ新聞 十月廿 外国電報

九月廿八日倫敦發 清國政府ハ佛國ノ要求ヲ拒絶セシ前報知
アリタリ (ニイル新聞)

同雜報ノ内

清國獨逸人ヲ水師提督ニ任ス ハンブルク(獨逸)ヨリノ報
ニ獨逸國前水師提督ヘルツェル氏ハ此度清國政府ノ招聘ニ應
ジテ同國ノ水師提督ニ任セラレ近キニ清國ニ赴アル由ニ見ヘタリ

提督ハ老練ノ海軍將官ニテ曾テアダルベルト親王ガ獨逸海軍
卿タリシ時其參謀タリシ人ノヨシナリ若シ此事實説ナラシハ時節
柄佛人ノ喜バザル處ナルベシ

東京横濱毎日新聞 九月廿六日

雜報ノ内

昨日日本紙外報欄内ニ佛國水師提督クルム氏ハ東京遠征軍ノ総
都督ニ命セラレ陸軍少將ブーエ氏ハ総督ノ任ヲ解レタ由ヲ掲載
シタリシガ右ノ一項ニ関シテ日本(ラウド)新聞ハ左ノ如キ説ヲ掲
出シタリ

水師提督クルム氏東京遠征軍ノ総都督ニ命セラレタリ
トノ新報ハ人ヲシテ最モ奇異ノ懷ヒライダカシクナルヘシ
何ナレバ則チ水師提督ヲシテ陸軍兵士ヲ都督セシムルハ稍
不通ノ事ナレバナリ況ンヤ同級ノ陸軍將官則チブーエの與ニ
同地ニ在ルニ於テラヤ然レモ此報ニシテ眞実ノモノナラバ恐クハ

二箇ノ獨立將校ヲシテ海陸兩軍ヲ別クニ都督セシムルニ勝ル
モノアラントノ觀察ニ出シナラン故加旃カサネクルルベハ曩キニ
順化府ノ攻陷ニ因リテ幾分カ戦功ヲ奏シタルモブローエハ其
軍略ニ於テハ常ニクルルベハ劣ル所アルモ亦其原因ノ一ナルベシ
云々

駐清公使佛國トククニ辭任 今回 **ペリトール** 後任ニ右ハ
曩、佛國公使ガ日本駐在中病氣由テ歸國ヲ乞フ電報
ツ本國へ發シタル其當時何ノ返報モナクアリシニ 時下佛國ハ東
京ヲ經略スル為ニ支那政府ニ葛藤ヲ生シブ、リ、公使本國
ニ召還セテ支那國ハ佛國ハ公使ニ是、於テ佛國外務卿ハ電報
以テトリクウカ、支那行リテ命シテ中堂ヲ談判シ任セタル、同
公臨時ノ使命ニ真、談判終レバ、考ヘ早速之ヲ承諾
シテ上海へ赴キテ、事實佛國政府見込ニテ、東京、經略ハ
支那ノ干渉防シテ緊要シハ、乃チ、トリクウカ、上海、沿、河、地
ニ、本、軍、堂、ヲ、遷、ヘ、其、南、行、テ、軍、事、ハ、預、ル、テ、遮、キ、ラ、シ、メ、タ、リ

斯ラトリクハ難ク李氏ヲ遊止李氏モ遂ニ天津ニ歸
任セシメリトウラハ大ニ之ヲ悦ビ電報ヲ以テ電報ヲ右ノ次第ヲ巴
里府ニ通知シ且バレノ使命モ既ニ終ヘタルニ更ニ北京帝駐
佛國全權使節ヲ派遣シ通常ノ外交事務ハ當ラレバレト
外務省ニ要請シ且バ其ノ事務者容易ク之ヲ肯セザリシカ遂ニ其
請ニ應ジテハトイトルハ其後任命シタリトウラハ其ノ新公使
到着ト云ヘリ佛國スベク或ハ其ノ出立ヲマモ知リ難シ
ト北清日報ニ先ユタリ

九月十九日 佛國公使トウラウ氏ハ其日上海ヲ天津ニ到着シ同日
午後三時フランキン、ダカニルノニ氏ヲ伴テ李鴻章ノ官ヲ訪レシ

後五時三分迄對談シ其應接互ニ親密ナルヲシナリ因ニ云ク李
公ノ幕賓馬建常^{馬建忠子}ハ先ニ辭表ヲ指シテ其風説アリシカ
方ニ愈々聞届ナリ更ニ元ノ如ク李才堂及ヒ天津衙門ノ法律
顧問兼佛語通譯官ト成リ李公カトウクハ對談ノ始モ陪席
シタリト云フ

清國通信 去月二十六日上海發 十月四日橫濱發

佛國軍艦^{ウオラタ子}ハ前キ^{ウリクラ公}使^載セ天津ハ出發セリ
其代ヲトシテ去月十九日回國軍艦^{ウレラス子}ハ香港ヲ上海ニ到
着セリ回國噸數二千四百馬力六百七十九大砲十九門、備ハ水兵
二百六十人^載至極堅固ナリト云テ而シテ怪快ナリ

廣東、一接、總督張公三千ノ親、出テ市中ヲ鎮割セヨリ
物論漸々平穩、歸シ先從テ入ラ、紳紳モモ、廿金、賞金
ヲシテ、今ノ殺シ已、教十人ノ先從テ、何レモ、斬罪ニ從テ、
ラント今度、暴動ヲ極言、家ノ外、國人ハ、總督ヲ、
由大略先ツ、三百方、兩ナリ、
廣東騷動ノ原因、循豫日報ノ安南ニ、
切論セヨリ、激シク、
其の漢ガ、カス、
地者在此中ハ、在清英國人ノ性命財產、
重テ前ノ、
切論セヨリ、激シク、
其の漢ガ、カス、
地者在此中ハ、在清英國人ノ性命財產、
重テ前ノ、

時事新報 十月八日

電報

十月三日龍動祭 佛京巴里府ニテ、取沙汰ニ内閣變更ノ
機切迫ノ勢アリトノ說專ラナリ内閣員中ノ議論相合ハセル所
アルニ相違アラズ ○後報ニ據レバ現内閣ハ唯國會ノ集會ヲ
待テ其進退ヲ決スヘシト云ヘリ

雜報

佛國公使 現任支那駐在ノ佛國公使トリクウ氏ハ、
パートノートル氏カ之ニ代ルベシトノ事ハ前号ノ紙上ニ記
載セシガ此パートノートル氏ハ今ノストックホルム府在留瑞典
諾威駐劄佛國公使ニ任ズルニ由

ふて、二字誤植歟

○ブリーリー公使 元ノ北京駐在佛國公使タリシブリー氏
此頃巴里府ニテ向國外務卿ノ相談アリトテ其招キヲ受タル
由氏ハ最初現内閣トノ不首尾ニテ召還サレタルトナルニ今其招請
ヲ受タリトアレハ或ハ清佛間ノ局面ニ変更ヲ生スベキトモアラ
シクト云フ

○第二ノ普佛戦争 就動衆ノ電報ナリトテ横濱ヘラレ
ド新聞ニ記載セル處ヲ見ルニ英國ニテハ普佛兩國ハ不日第二ノ
戦争ヲ開クニ至ラントテ其評判大方ナラズ皆兩國ノ拳動ニ注
意シ居レリ其ハ何故ト云フニ近來歐洲ニテ佛國ハ兵ヲ其東
境ニ移スト少ナカラズトノ凡聞アリシニ付キ佛國政府ハ日耳曼
政府ニ向テ佛國ガ兵ヲ東境ニ移シタリトノ報道ハ今々無根ナリ

ト申シ送りタレドモビスマルク候ハ尚之ヲ信セサルニヤ千八百七十
一年ノ戦争ニ佛國ヨリ割キ取りタルアルサス州ヘ向ケ兵隊ヲ
送遣スルノ用意ヲナシタルガ為メナラン

東京日々新聞 十月八日

外國電報

十月三日倫敦発 佛京巴里ニテハ同国内閣中議論相協ハガ
ルトノ知レ渡リタルヨリ其進退ノ危機將ニ迫レリトノ凡説
流傳セリ

○次報ニ據レバ佛国内閣モ其進退ヲ議院集會ノ後ニ決セン
トテ只管其集會ヲ待テ受ラルヨリナリ(ニイル新聞)

時事新報 十月九日

雜報ノ内

清佛ノ關係

巴里府支那公使館ノ一官ガ明言スル処ニ

由レバ支那ハ從來ノ如ク安南ニ對スルノ主權ヲ維持スル
目的ニテ決シテ名譽上ノ空主權ニ甘ンゼズ既ニ曾ハ公使ハ支
那政府ノ意見ヲ佛政府ニ申出シタレモ未ダ佛政府ノ回答ヲ
得ズ云々ト又佛國政府ニテハ支那政府ノ申出ヲ決議スルタメ
九月十日内閣會議ヲ催シタル由ナレモ未ダ其決議ノ次第ハ詳
カラス同月十二日ノ佛國ナシヨナル新聞ニハ佛清間ノ談判好
都合ナラザルニ於テハ現内閣ヨリ代議院ノ臨時會議ヲ
開ヒテ東京事件ノ問題ヲ下附スルナラン外務卿シヤルメル
ラクル氏ハ支那國ニ讓与ニテ和親ノ條約ヲ結バントスレ

ドモ陸海軍両卿ハ之ニ反對シ支那カ東京ヲ侵掠スルニ抗
スルハ名譽ニシテ且ツ義務ナリト主唱スル由見ヘタリ昨日
ノ海外電報ニ佛國ノ内閣中紛議ヲ生ジテ内閣更迭ノ勢
アリトアルハ或ハ東京事件ノ為メナルヤモ知ルベカラズ去年
埃及管理權ノ爭論ヨリ佛國內閣ノ更迭ヲ致シタル前例モ
アレバ今度佛清ノ交渉ニ内閣中ノ議論一ナラカレモ自然ノ勢
ナルベシ又曾公使ハ巴里ヨリ倫動ニ赴クノ途次フホーケストン
ニ於テ某ニ對面セシ時ノ話ニ支那ハ安南ノ主權ニ関シテ一步モ
讓ラサルノ廟議ヲ一決セリ予モ佛國ヲシテ支那边疆ノ地ヲ有
セシメンコトヲ欲セス佛國若シ東京ニ援師ヲ派遣シテ其憚ル
一少ヲ知ラズンバ遂ニ支那ヲシテ大ニ兵ヲ境上ニ派セシメテ寧ロ

虎威ヲ犯スノ不幸ヲ蒙ルベシ云々ト口外セシ由ナレド是レ或ハ
誇誕ノ言ニテハアラザル歟

○佛國外務卿ノ失策

佛國外務卿シヤルネ、ラクル氏ト清

國公使曾紀澤ト東京事件ニ就テ度々ノ談判ヲ開キタル由ハ
當時ノ紙上ニ報道シタルガ尚聞ク所ニ依レバ此談判ニ関シテ
ラクル氏ノ外交政略ハ甚々其宜キヲ得ストノ評判アリ初メ
東京事件將サニ破裂セントスルノ兆ヲ現ハシ清佛ノ關係愈切
迫シタル際ラクル氏ハ何等ノ見込ナルニヤ東京事件ハ其
結着遠キニ非ス佛軍ハ持重シテ敵ヲ支那兵ヲ驚カスニ至ラサルモ
尚兩國ノ談判ヲ完結スルコトヲ得ントノ公報ヲ發シタリラクル
氏ハ斯ク平和主義ヲ主張スルカト思ヘバ清國公使ニ向テハ却テ

其親密ヲ表セズ曾紀澤が屢面謁ヲ請ヒ東京ノ談判ニ付
テ注意ヲ與ヘ置クニモ拍ハラスラクル氏ハ更ニ之ヲ顧ミザリシ
カハ曾紀澤ハ意ヲ決シテラクル氏ノ許ニ遣ハシ某聊カ思フ
所アリテ龍動ニ赴カンスレ共貴君若シ公務ニ関シテ某ヲ見ルノ
必要アラハ電報ヲ以テ其旨ヲ龍動マテ申送ラルベシト言ヒ放テ
断然巴里府ヲ出立シタルハラクル氏ハ曾紀澤ノ意既ニ決シテ
ラ悟リ大ニ驚キテ措ヲ失ヒ已ムヲ得ズ曾紀澤ニ面會セントスル
ノ旨ヲ龍動へ申送ルニ至リタリラクル氏カ此場合ニ到リ俄ニ
弱點ヲ示シタルハ同氏ハ初テ平和主義ヲ取り安南へ派遣シ
タル佛兵モ其數甚ダ少キ故一朝東京ニ事アル佛軍一敗地ニ塗ル
ニ至ルベシトノ恐レモバナリラクル氏ノ外交政略ハ一強一弱斯ク

其度ヲ失ヒタルノ痕跡アルヨリ佛國ノ評判モ甚タ悪シクセル
九月廿日龍動宛ノ電報ニラクル氏ハ賜暇ヲ得宰相ジユール
フエリー氏代リテ清佛ノ談判ヲ完結スベキノ命ヲ受テリトアルモ
亦此等ノ故ナルベシ

佛軍と雲梯
の間、和議の開

東京日々新聞 十月十日

外國電報

佛國水師提督クルーバー氏 安南派遣ト黒旗兵ノ首
領劉義ノ間ニ談判ヲ用キ劉義ハソノタイを引キ揚グル
事ヲ諾シタリトノ旨我東京ノ或ル方ヘ電報アリシヨシ
マイル新聞ニ見ユ

言方

言方

東京日々新聞 十月十日

雜報

曾公使佛国外務卿ノ奉勅ヲ憤ル 英國ポールモールガセツ
ト新聞ノ巴里府通信者ヨリ、同新聞ニ報道セシ大意ヲ譯出
セシ曰ク清佛ノ談判モ初ノ程ハ双方トモ折合宜シカリシガ中途
ニシテ佛国外務卿ノ奉勅曾公使ノ意ニ落チザリシ事ノ出来
シヨリ何トナク其間和睦セズ其故ヲ尋ルニ初メ曾公使ヨリ談判ノ
義ニ甘キ數通ノ書翰ヲ佛外務卿ニ送り名ニ外務卿ハ之ヲ
意トホリシニヤ返事モセズ又曾公使ヨリ駕ヲ枉ケテ外務
卿ヲ訪ヒシニ外務卿ニハ訪問ノ礼ヲ返シテ曾公使ヲ訪ハザリ
シカバ曾公使ハ斯ク迄ニ中國ヲ蔑視スルトハ餘リトイハハ無礼

ナリヨシク其義ヲバ仕方アリトテ大ニ憤ラレケルガ間モナク
清兵三方境ヲ越ヘテ安南ニ入レリト聞ヘ又曾公使ハ屬官
ヲ外務卿ノ許ニ遣ハシ口頭ニテ曾公使ハ今ヨリ倫敦ヘ赴
ケバ公事アリテ面會ヲ要スルトキハ電報ヲ以テ其旨申越ル
ベシト云ハシメ其身ハ直チニ英國ニ渡ラレタリ佛外務卿之ヲ
聞キテ大ニ驚キ然アリテハ一大事ナリ兎ニ角一度ノ面會
致シ度ト申シ送りケレバ曾公使モ公務トアラバ罷リ歸ル
ベシトテ再ビ巴里ニ歸レシガ外務卿シヤルメルクル氏ガ
挙動ニ付キ我ニ向テ説明ヲ為サシム以上此方ヨリ外務省
ニモ参ルマシ公文ヲモ送ルマシトテ公使館ノ外ハ一切出ラレ
サリシニヤルメルクル氏ハ思ハルヤウ若シ之ヨリ事破レ

戦初ラ我援兵彼ノ地ニ着スル迄ニ東洋派遣ノ佛軍ハ皆
清兵ノ為メニ廢殺ニセラルベキハ必定ナリトテ自ラ米國公使ノ
許ニ至ラレ米公使ニ閣下ヨリ曾公使ニ向テ佛外務卿ハ決
シテ清使ヲ蔑視スルノ意ナシ思ヒシカラズ思ルベシト傳ヘラレ
ントテ乞ハレシニ米公使ハ之ヲ諾シテ曾公使ニ其旨ヲ傳ヘシ
ガ曹公之ヲ以テ尚ホ満足セズ佛国外務卿ヨリ我書翰ニ返事
ヲ為シ又訪問ノ礼ヲ返サレサル間ハ再ビ公務ノ往復ヲ為ス
マシト主張セラレタリ外務卿モ去ラ得ス前ノ書翰ニ返事ヲ為
サレタレモ未タ之レガ為メニ曾公使ガ意ヲ解ク能ハス何トヤラ
兩國ノ間ニ雲烟ノ擁塞スルヤウニ覺ユ又曾公使ハ清兵決シテ
佛國ノ妨ヲ為サズト保證セラレタレモ小生(通信者)ノ考フル處ニテハ

清兵ノ安南ニ入リ表向ハ中立ト云ヘ其突黒旗兵ノ助ヲ去
ベキニ相違アルマジサレバ清佛兩兵ノ安南ニ對スル今日ノ舉ヒハ
恰モ火藥ノ傍ニ燈ヲ樹ツル心地セラレテイト危シクトアリ
右ハ去ル九月八日ノ紐育ヘラド新聞ニ載ル處ナレバ以テ
上幾カカノ變動アリシナルヘケレバ讀者ハ是ヲ以テ現時ノ状
況ヲ為ス勿レ

東京日々新聞 十月十日

外國電報

十月九日倫敦發 清佛兩國間ノ事昨今全ク中止ノ姿ナリ
其談判ハ整ハサリシモノト信セラル (ヌール新聞)

○九月十八日香港發 九月十八日佛軍河内よりフリーホイン
ニ進撃シタルニ敵軍ハ在リノマ、ニテ敵ノ一兵ヲモ見ズ黒旗
兵ハタイ河ヲ渡リテソクタイニ引キ揚ゲタル様子ナリ又墨
中ニ出ル五月十九日ノ戦ニ討死シタル佛將リヒエール氏ノ首
級ヲ初メ其他佛人ノ首級三十個アルヲ發見シタリシガ其死体ハ
何レニアリトモ未ダ知レズ佛軍ハ其翌日河内ニ歸陣セリ

九月十八日佛軍
河内より北岸ハ
進撃シ墨旗兵
影ニシテ佛將
リヒエール氏ノ首
級ヲ初メ其他佛
人ノ首級三十個
アルヲ發見シタ
リシガ其死体ハ
何レニアリトモ
未ダ知レズ佛軍
ハ其翌日河内ニ
歸陣セリ

時事新報 十月十日

八月十日

清國ノ水師提督 ハルゲ在留龍郵支那新報ノ通信記者ハ八日
 十四日附ク左ノ一報ニ其本社ノ寄送シテ曰ク日身曼前水師
 提督ヘシヒル氏ハ清國政府ノ招請ニ應ジテ同國ノ水師提督
 名ヲ約セリトノ説アリ是子ハ故アタルガリト親王ノ隨官ヲ當リ
 普福西海軍卿ト任ジ爾來退テ官ハバテシノ閑居ヲアリシガ今
 度ハ支那海軍ノ指揮官トシテ不日東洋ヘ向テ出發スベシ自
 下清佛交渉ノ際、當佛人若シ此ノ間知セバ大ノ憤怒ナキ
 能ハサヘシシ

十月十日 佛事

駐清前公使
 ブロー
 東京征討前將軍
 ブロー
 現時宰相
 フエリ

必佛事件

前駐清ブロー氏 五月二十日 清國ヨリ辭任日本ノ經國ニ
 安南司令長官 リロエール黒旗兵ニ討テ五月十九日戦死
 東京征討將軍 ブロー 辭職シテ 帰國

非戦論

宰相 フエリ氏ノ介リ

議官ブロー

主戦論

外務卿 シヤルネラクレ

現清國駐劄公使 トリク

現東京出張軍一頭司令官 クルベ
海軍部者ナリシ
 此等ノ軍ニ宿ス

トリクヲ將歸俄國

現安南順化府佛國時流使節
現安南東京理事院長ハ一

八月曾上海申報

七月曾佛軍黑旗共小戰死傷交々ニ三十人勝負ナシ
黑旗共ヲ相戦書ク者本月内一雄雄々々決シ日覺キ大戦ヲ
開クト申シ之ニ應ジ佛軍ニハ其ニ二十日期ニテ十九日、不意ニ騎兵
ニ度ク進撃シ始メリ是時黑旗共、騎兵ヲ以テ軍ヲ退ケ其
陣邊ニ黒旗軍師トテ指揮シテ左右翼ヲ張リ佛ノ騎兵ヲ邀
ハ獲戦三時佛兵敵死百名斬首ノ者兵ヲ打取セ七名餘各首級
ヲ得ハ一八百黒旗勢、案ニテ新募ノ客兵四百餘人ヲ招降シ此日
黒旗ニ負傷百餘名、及テ翌日佛軍ノ士官七名貿易商人
打物シ黒旗ノ兵場又テ其消息ヲ探獲ハ忽チ夜覺ニテ捕縛
セリ其首級ヲ切り尾斷テ大矢ヲ竹枝に載セテ佛軍、勢州ニ流シ

五月十日、黑旗劉軍始、佛軍小戰、佛軍勝、獲百餘名虜獲

五十六、劉軍獲佛軍、敵、死、人、百、餘、名、虜、獲、五、六、十、

六月一日、劉軍獲佛軍、敵、死、人、百、餘、名、虜、獲、五、六、十、

六月十日、劉軍在南定、佛軍、擊、破、之、佛軍、三、百、名、戰、死、一、

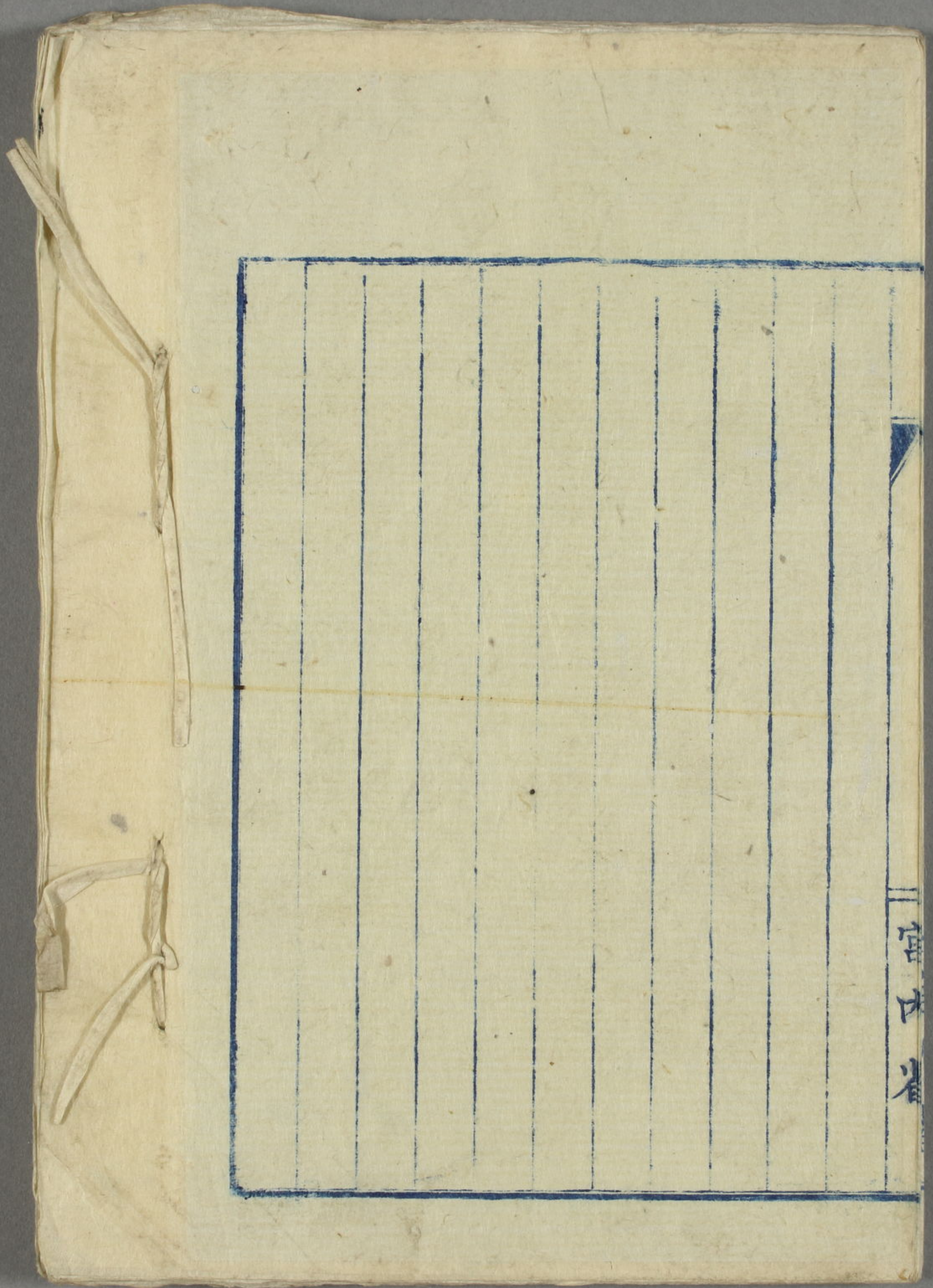
七月四日、劉軍又佛軍、破、敵、陣、殺、三、十、名、

八月七日、劉軍佛軍、戰、死、人、百、餘、名、

十月、兩軍交戰、各有死傷、約、三、三、十、名、

十七日、兩軍交戰、劉軍又佛軍、攻、佛、人、及、其、西南、在、兵、之、斃、八、百、餘、名、

十八日



宮内省